

現存最古の茶葉「初昔」を含む約 100 点の茶道具が集結
オランダ国立世界文化博物館からブロムホフの至宝が 200 年ぶりに日本へ
『OTEMAE～ブロムホフ 茶道を愛した異邦人～』

会期：2026年11月13日(金)～2027年2月21日(日)

「憧れの異世界。」をブランドに掲げる長崎県のテーマパークリゾート「ハウステンボス」は、2026 年 11 月 13 日(金)から 2027 年 2 月 21 日(日)の期間中、オランダ王室公認の宮殿「パレス ハウステンボス」内のハウステンボス美術館にて『OTEMAE～ブロムホフ 茶道を愛した異邦人～』を開催いたします。

特設サイト：<https://www.huistenbosch.co.jp/htb-news/664>



『OTEMAE～ブロムホフ 茶道を愛した異邦人～』

オランダ国王に披露された世界最初の日本コレクションが、オランダ国立世界文化博物館をはじめとする関係機関の協力のもと、約 200 年ぶりに日本へ里帰りします。会場は、オランダの宮殿を忠実に再現した

「パレス ハウステンボス」(ハウステンボス美術館)。約 100 点の茶道具をはじめ、奇跡的に現存する最古の碾茶(抹茶の原料)「初昔(はつむかし)」など、江戸時代の茶の湯の歴史を語る貴重な品々を一堂に公開します。

20 年以上にわたり構想されてきた本展では、日本の茶文化に魅せられた一人の異邦人、ヤン・コック・ブロムホフのコレクションを通じて日本文化を再発見するとともに、江戸時代の「生きた茶の湯」の世界を体験いただけます。

ヤン・コック・ブロムホフは、1817 年から 6 年間にわたり長崎・出島のオランダ商館長(カピタン)を務めた人物です。彼は日本文化に深い理解を示し、とりわけ茶道に深く魅せられました。オランダ国立世界文化博物館(旧・国立ライデン民族学博物館)に収蔵される彼のコレクションには、実際の茶会をそのまま再現できるほど体系的に揃えられた茶道具が残されています。それらは権威ある名物や献上品ではなく、江戸時代後期の日常の茶の湯で用いられた道具が中心であり、当時の「生きた茶の湯」を約 200 年の時を超えて伝える、まさにタイムカプセルともいえる存在です。さらに、オランダ国王への献茶を彷彿とさせる真台子・皆具の一式、帰国の餞別として贈られ長い航海でも茶を楽しんだことを物語る茶箱、そして茶の湯を母国へ伝えるために特注された「茶人人形」など、一つひとつの道具がブロムホフの茶への深い情熱を今に伝えています。ブロムホフは茶の湯そのものをヨーロッパへ伝えようとしていました。こうした足跡から、ブロムホフは西洋人として最初の「茶人」と称すべき人物であるといえるでしょう。

長崎・出島の商館長ブロムホフがコレクションした茶道具約 100 点の見どころ

《もう一つの茶人伝/茶道を愛した異邦人》出島オランダ商館長ブロムホフの OTEMAE とその熱き心

一人のオランダ商館長・ブロムホフは、日本の茶文化に深く魅せられました。彼が持ち帰ったのは、単に美しい茶碗や道具類だけではありません。点前の所作や心得を深く理解し、その精神性ごと母国へ伝えようとした痕跡が、約 100 点のコレクションの随所に残されています。

実際に茶会を再現できるほど体系的に収集された茶道具や「茶人入形」を一堂に展示。かつてブロムホフが眼差しを向けた、江戸時代の茶道の世界をご紹介します。



天目茶碗 1800-1823



茶葉 (初昔) 1820



茶人入形 1800-1823

《異邦人が感銘した日本文化》ブロムホフ以外にもシーボルトとフィッセルが愛した美しき日本

日本の茶道や文化に魅せられたオランダ人は、ブロムホフだけではありませんでした。出島オランダ商館の医官シーボルトは、日本の自然や文化を科学者の視点から調査するとともに、日本で飲まれていたさまざまな茶葉をヨーロッパへ持ち帰りました。その代表が「上喜撰（じょうきせん）」です。ペリー来航を詠んだ「泰平の眠りを覚ます上喜撰 たった四杯で夜も寝られず」という狂歌によっても知られるこの銘茶は、江戸時代を代表する高級茶の一つでした。本展では、「上喜撰」をはじめ、シーボルトが持ち帰った貴重な茶葉をご覧いただけます。また、商館員フィッセルは、ブロムホフのコレクションには見られない希少な陶磁器や、日本人の暮らし、年中行事などを体系的に収集し、日本文化の魅力をヨーロッパへ伝えました。三者三様、異なる眼差しで切り取られた江戸時代の日本文化の魅力をお楽しみいただけます。



提重 1800-1826



左：茶葉（今出川）江戸時代 右：茶葉（老同茶）1823-1829



炭斗 1800-1829

異国趣味を取り入れ、江戸時代に新しい“美意識”をもたらした「遠州流茶道」

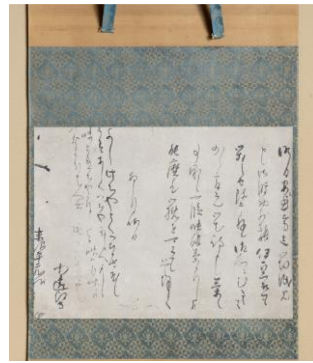
《遠州流茶道》小堀遠州とオランダ そして現在から未来へ

本展では、440年の歴史を持つ遠州流茶道とオランダとの深い関わりについてもご紹介します。流祖・小堀遠州は、江戸時代前期を代表する大名茶人であり、海外からもたらされた陶磁器や異国趣味の茶道具にも高い関心を寄せ、その美を積極的に茶の湯へ取り入れながら、「綺麗さび」と呼ばれる独自の美意識を確立しました。その背景には、オランダ商館を通じてもたらされた舶来文化の存在がありました。

本展では、遠州流茶道に伝わるオランダゆかりの茶道具や資料を展示し、遠州をはじめ当時の茶人たちが異国の美に見出した魅力を探ります。さらに、遠州流茶道十三世家元・小堀宗実宗匠がオランダで制作された好み物や、オランダの器物を見立てた茶道具もあわせて展示し、江戸時代から現代へと続く日蘭交流の歴史をご覧いただけます。



和蘭陀筒茶碗



小堀遠州筆 消息 長崎代官 末次平藏宛の掛軸

《ハウステンボス コレクション》オランダから日本へ、日本からオランダへ

17～19 世紀、出島を舞台に日本とオランダの間で人やモノ、文化が行き交いました。本展では、ハウステンボスが所蔵する当時のオランダの民具や絵画、工芸品、衣装などを幅広く展示いたします。ブロムホフらが生きた時代のヨーロッパの暮らしや美意識に触れながら、海を越えて結ばれた日本とオランダの歴史を感じていただけます。



左 : 「ヤン・アゼレインの肖像」 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン 1647 年
中央 : 色絵藤文双耳壺 伊万里 18 世紀
右 : 色絵松竹梅文角瓶 伊万里 18 世紀



《日蘭交流の記憶—日本初公開、川原慶賀筆「ブロムホフ家族図」修復プロジェクト》



ブロムホフ家族図 1817-1818

このブロムホフ家族図は、世界初公開となる、かけがえのない時間をとどめた一枚です。世界に数点しか現存しないブロムホフ家族図の中でも、本作品は川原慶賀が最初に描いた作品と考えられ、その後に制作された家族図の原点ともいえる極めて貴重な作品です。

当時、日本は鎖国下にあり、外国人の滞在には厳しい制限が課され、とりわけ女性や子どもの入国は認められていませんでした。ブロムホフと共に来日したブロムホフの妻ティティアと幼い息子ヨハネスも、わずか三か月後には幕府の命により帰国を余儀なくされます。

本作品は、その短くも幸福な家族のひとときを描きとめた、歴史の証人ともいえる一枚です。今回、ライデン世界博物館の新収蔵品となった本作品を京都で修復し、修復後初めて、ハウステンボスで世界初公開いたします。

鑑賞だけではなく、体験イベントも開催

遠州流茶道による特別茶会

本展の開催に伴い、パレス ハウステンボス内にて遠州流茶道による特別茶会を開催いたします。椅子とテーブルを用いる立礼（りゅうれい）席*形式のため、茶道に馴染みのない方やお子様まで、どなたでも気軽にお楽しみいただけます。ブロムホフが魅せられた茶の湯の世界に触れながら、ゆったりとしたひとときをお過ごしいただく特別企画です。

会 場：ハウステンボス美術館(パレス ハウステンボス内)



料 金：無料（別途ハウステンボスの入場パスポートが必要）

日 程：11月13日(金)、21日(土)、22日(日)、12月19日(土)、20日(日)、1月16日(土)、17日(日)

※予告なく変更になる場合がございます。ご来場前に公式サイトをご確認ください。

立礼席（りゅうれいせき）：椅子とテーブルを使ってお茶を点てたり、いただいたりする茶道の形式(立礼式)のことです。正座をする必要がないため、足腰に負担がかからず、和服でも洋服でも気軽に本格的なお茶を楽しめるのが特徴です。

入館特典

期間中、本展に来場したゲストの皆様に「綾鷹カフェ 濃い抹茶ラテ」を先着で無料配布いたします。

詳細は後日、公式WEBサイトで公開いたします。

【開催概要】

展覧会タイトル：OTEMAE〜ブロムホフ 茶道を愛した異邦人〜

会 期：2026年11月13日(金)～2027年2月21日(日)（97日間）

※2027年1月12日(火)～1月15日(金)はハウステンボス休園に伴い休館

会 場：ハウステンボス美術館(パレス ハウステンボス内)

時 間：10時～18時（最終入館は30分前）※ハウステンボスの営業時間やイベント開催により変動あり

主 催：ハウステンボス株式会社、日本経済新聞社

特別協賛：ヤマト運輸株式会社

協 賛：FWD生命保険株式会社、西日本新聞社、株式会社文明堂総本店、株式会社ジャパネットホールディングス、
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、日本航空株式会社

後 援：オランダ王国大使館、長崎県、長崎県教育委員会、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐世保市、
佐世保市教育委員会、遠州茶道宗家、(公財)小堀遠州顕彰会、遠州流茶道連盟九州地区

企画協力：茶の文化フォーラム株式会社、株式会社 GSTYLE

特別協力：オランダ世界文化博物館

■冬のハウステンボスについて

【2026年11月6日(金)から】

新イルミネーション「ザ・スターライト・ミリオン」誕生

クリスマスイベント「ヨーロッパ・ホーリー・クリスマス」開幕

11月6日(金)より、13年連続日本一※¹の称号を持つイルミネーションを16年ぶりにリニューアルし、新しく「ザ・スターライト・ミリオン」をスタートします。

さらに過去最大※²スケールにパワーアップしたクリスマスイベント「ヨーロッパ・ホーリー・クリスマス」も、同日より開催。今年は新イルミネーションの誕生によって、クリスマスがより一層特別なものへと進化します。

プレスリリース：[260714_pr18.pdf](#)



【2026 年 11 月 14 日(土) 開催】「第 13 回 九州一 大花火まつり」

13 年連続日本一※1 に輝いたイルミネーションが輝くヨーロッパの街を舞台に、西日本最大級 22,000 発の花火が盛大に彩ります。直径約 300m の大スケールでお届けする圧巻の一尺玉花火や、目の前を埋め尽くす壮観なフィナーレ花火をお楽しみいただけます。

プレスリリース：[260512_pr9.pdf](#)



【ハウステンボスについて】

ハウステンボスは、「憧れの異世界。」をブランドに掲げ、東京ドーム約 33 個分と広大な敷地が広がる長崎県のテーマパークリゾートです。

圧倒的なスケールとクオリティを誇るアトラクションをはじめ、季節ごとに街全体が華やかに彩られる多彩なエンターテインメントや 13 年連続日本一※1 に輝いたイルミネーションなど、「ワクワクが、続々！」のハウステンボスで、唯一無二の体験を通して朝から夜まで 1 日中「憧れ」に酔いしれる感動と興奮をお楽しみいただけます。

※画像はすべてイメージです

※1：(一社)夜景観光コンベンション・ビューロー 2013 年～2022 年「イルミネーションアワード」総合エンタテインメント部門 第 1 位、および 2023 年～2025 年「International Illumination Award(インターナショナルイルミネーションアワード)」イルミネーションイベント部門 優秀エンタテインメント賞第 1 位を 13 回連続獲得

※2：クリスマスオーナメント壁面装飾において（2026 年ハウステンボス調べ）

【お客様のお問合せ先】 ハウステンボス総合案内（ナビダイヤル） Tel：0570 (064) 110

【取材等のお問合せ先】 ハウステンボス コミュニケーション部 PR・広報課

Tel：0956 (27) 0180／Email：pruser@htb-j.com